

とは、結びついていると思われる。

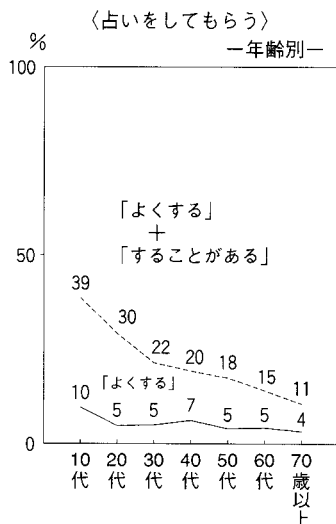
一九八一年のNHKの宗教意識に関する調査のなかに、占いについての質問項目がある。それらを年齢別および男女年齢別に図表化したものが図表4と5である。図表4から、女性および(ないし)若年層(一〇代から二〇代の年齢層)が、一九八一年という時点で、占いをしてもらっていること(もしくは占いの受容)を読みとれる。しかし、注意すべきことは、この質問肢では「誰」に占いをしてもらったのかが特定できない。確かに「してもらう」という言い方から、自分で占うという行為は含まれていないと思われる。では、自明的に「占い師に占ってもらう」とみなしていいのであろうか。他の調査とあわせながら考えてみよう。一九九〇年に『月刊アクロス』という雑誌が女子高校生に対して占いに関する調査を行って

いる。その調査から、「人に占ってもらったことがありますか」という質問に対し「ハイ」と答えた者は64.0%、そして「占い師に見てもらったことがありますか」という質問に「ある」と答えた者は22.0%という結果がでている。もちろん、NHKの調査とは質問肢が異なるために直接的には比較はしえない。しかし、この『月刊アクロス』による調査結果は、「人に占ってもらう」ことを「占い師に占ってもらう」と自明的にみなしてはならないということを示している。であるならば、一九八一年の時期も限定的に捉えることが必要となる。また、『月刊アクロス』による調査結果の22.0%という数値が持つ意味についてであるが、この調査がなされる以前にこれと同様の調査なされているわけではなく比較できる資料がないために、その数値については慎重に検討する必要はあ

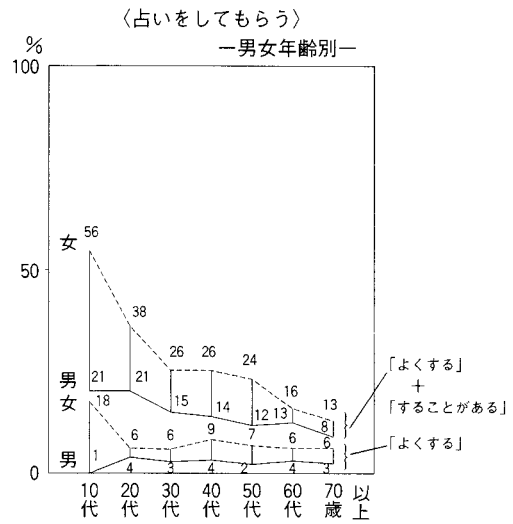
図表4

「日ごろ、あなたは、つぎのようなことをしていますか。『占いをしてもらう』についてはいかがでしょう。」NHK世論調査部 一九八一年	
よくする	5.6%
することがある	16.6%
しない	77.6%
わからない、無回答	0.1%
合計	100.0%

図表4-A



図表4-B



(NHK 放送世論調査編『日本人の宗教意識』日本放送出協会 一九八四年)